

夏季高温による影響と対策について

農業総合センター
専門技術指導員室

I 野菜

1 イチゴ

影響

(1) 高温により（ランナーから切り離れた）苗の発根が抑制されていたり、葉の焼けが散見される。

(2) 育苗トレイやポットの乾燥が激しくなる。

(3) 炭疽病や疫病の発生が懸念される。

対策

(1) ハウスを遮光する。具体的には、遮光率 50～80%の遮光ネットをハウスに掛ける（子苗の活着までは、遮光率 80%程度必要）。遮光剤※をハウスに塗布する。

※ カルシウム等を含む白色の遮光剤。塗布の程度により遮光程度は変わるが概ね 30～40%程度の遮光率。降雨により次第に流れ落ちるため、遮光の持続期間は降水量により変わる。塗布剤のみでは遮光率が低いので、ネットと組み合わせる。

(2) 十分な換気（サイドの換気部分を広くする、可能なら妻面換気）を行う。

(3) なるべく点滴灌水または手灌水を行なう。ミスト灌水は省力的だが、茎葉が濡れる割に土に水が供給されない。朝に充分灌水するようにするが、追加が必要な場合は 15 時頃に最低限の量を与え、日暮れまでには土の表面が乾き始める程度とする。

(4) 過剰な灌水を避け、十分な換気により、葉やクラウンが濡れている時間を少なくする。葉かきを行い過繁茂や徒長を避け、防除を徹底する。

2 トマト

影響

(1) 強日射による放射状裂果の増加が懸念される。

対策

(1) ハウスの遮光、十分な換気、曇天日の定植を行う。

(2) ハウスの遮光は 30%程度とする。（遮光が強すぎると空洞果の増加や、節間が伸びるため）

3 ピーマン

影響

(1)落花，果実の日焼けが発生する。

対策

(1)ハウスの遮光と十分な換気を行う。過度の整枝を避ける。

4 葉菜類

影響

(1)発芽不良や生理障害（日焼け，チップバーン等）が発生する。

(2)立枯病，軟腐病の発生が散見される。

対策

(1)ハウスの遮光（30%程度、遮光が強すぎると徒長する）と十分な換気を行う。

(2)播種前に充分灌水し，多発する生育初期に灌水しないで済むようにする。灌水を行う場合は朝の内とする。

5 ニンジン

影響

(1)高温乾燥による発芽不良や発芽後の枯死が散見される。

対策

(1)降雨前に播種する。ただし，農家が現実的に行なっている方法であるが，適期を外した播種となり，収穫期が予定とずれたり，過肥大や肥大不足となる危険がある。

6 サツマイモ

影響

(1)乾燥による肥大不足や高温乾燥による内部褐変の発生が懸念される。

対策

(1)灌水を実施する。（現実には殆ど実施できない。）

7 アールスメロン

影響

(1)高温による黄化葉症が散見される。

(2)株全体の葉が一気に黄化する生理障害は発生すると，光合成ができなくなり果実糖度は上がらなくなる。春秋系では発生が見られるが，旧盆頃には夏系の収穫に切り替わるので発生が見られなくなる。

対策

(1)発生後の対策はない。

(2)予め遮光すれば発生は減ると思われるが，果実品質は確実に低下する。

II 畜産

1 家畜

影響

(1)食欲不振，受胎率の低下，乳量の減少（乳牛）産卵率の低下（採卵鶏）など生産性が低下する。

(2)最悪の場合，廃用，死亡につながる。

対策

(1)飼育密度を緩和する。

(2)毛刈りを実施する。（乳牛・肉牛）

(3)畜体への送風及び散水・散霧により，家畜の体感温度を低下させる。

(4)夜間に飼料給与（乳牛・肉牛）して，1回あたりの給与量を減らし，給与回数を増やす。

(5)冷たい飲用水を十分に確保する。

(6)畜舎周囲に遮光ネットを張り付ける。畜舎周辺に木を植えておき，日陰を作る。

(7)畜舎の屋根，壁への断熱材の使用および白色系塗料や石灰等を塗布する。

(8) 畜舎の屋根へかん水チューブ等を設置し，散水する。

2 飼料作物

影響

(1)高温・乾燥による生育不良が発生する。

(2)虫害が多発する。

対策

(1)土壌の保水力向上のために完熟たい肥を播種前に投入しておく。

(2)ほ場かん水を行う。

(3)害虫防除を徹底する。